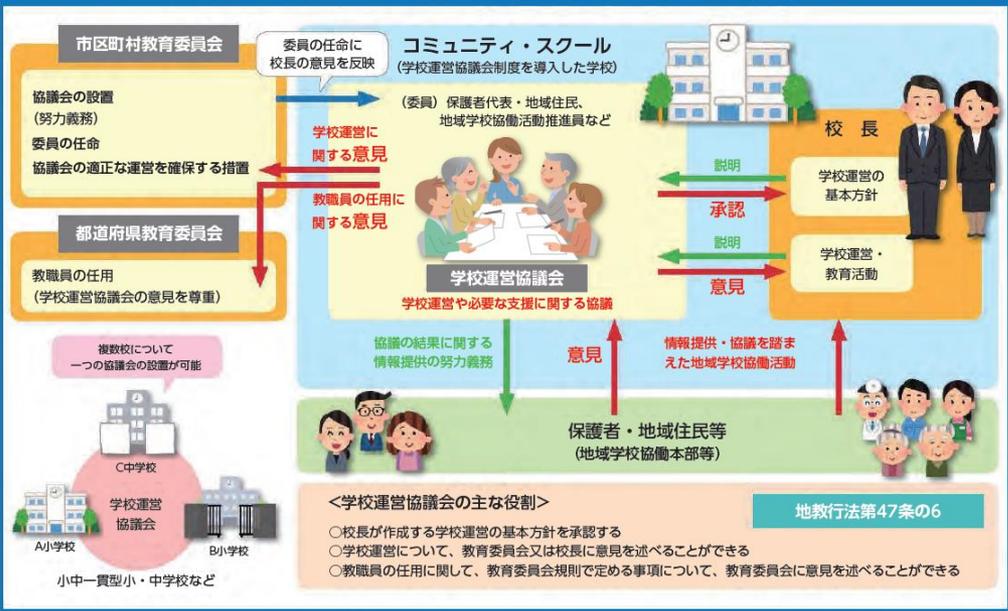


仙台版コミュニティ・スクール

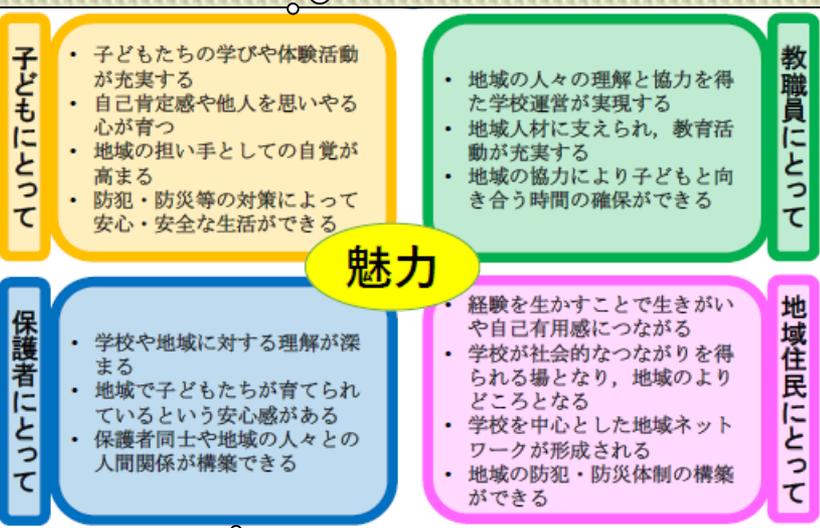
コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)とは

コミュニティ・スクールは「学校運営協議会」を設置している学校を指します。学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るために有効な仕組みで、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことを目的としています。学校運営の責任者は、これまでどおり校長であり、学校運営協議会が校長の代わりに学校運営を実施、決定するものではありません。

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み



コミュニティ・スクールにはどんな魅力があるの？



コミュニティ・スクールにはどんな効果があるの？

コミュニティ・スクール導入後の期待される効果

①組織的・継続的な体制の構築

校長や教職員の異動があっても、学校運営協議会によって地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できる「持続可能な仕組み」である。

②当事者意識・役割分担

学校運営協議会や熟議²等を通して、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかという「目標・ビジョンを共有」できる。

③目標・ビジョンを共有した「協働」活動

校長が作成する学校運営の「基本方針の承認」を通して、学校や地域、子どもたちが抱える課題に対して関係者がみな当事者意識を持ち、「役割分担をもって連携・協働による取組」ができる。



仙台版コミュニティ・スクールは5つの視点ですすめられます

仙台市では、2018(平成30)年7月から2019(令和1)年12月まで「仙台版コミュニティ・スクール」のあり方についての検討・協議が進められ、2023(令和5)年度までに全ての市立学校でコミュニティ・スクールを導入することが決まっています。今後、各学校や地域で導入に向けた準備が進められます。

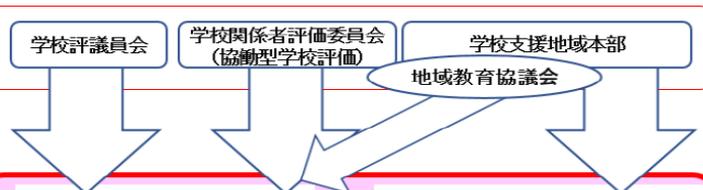
仙台版コミュニティ・スクールの方向性



1. 学校評議会や学校関係者評価委員会、地域教育協議会など、既存の組織を生かし、学校運営協議会を設置します!
2. 「育む子ども像」について、学校・家庭・地域が目標・ビジョンを共有し、互いの役割の理解・分担をしながら、一体となって子どもたちの成長に関わり、地域絵ぐるみでの教育を目指します!
3. 学校の求めに応じて支援を行ってきた「学校支援地域本部」を生かし、学校と地域が双方向の「連携・協働」できる体制を目指します!
4. 学校の中に地域住民が集まる「場」を設置します!
5. 学校と地域が双方向の「連携・協働」の体制を通して、将来的には「学校を核とした地域づくり」につなげていきます!

※既存の組織を一体化し、包括的な機能を持った学校運営協議会にします!
仙台市でこれまで取組んできた「学校関係者評価委員会(協働型学校評価)」と「学校支援地域本部」を生かしていきます。

導入前



導入後



ちなみに「学校ごとに設置するか、中学校区で設置するか」や「集まる場をどこに設置するか」などの検討についても各学校、地域にゆだねられています。「自分たちの学校をどうしたいのか」「地域の子どもたちをどう育てたいのか」など長期的な視点で未来を考え、そのビジョンを共有し、みんなが参加できる「仙台版コミュニティ・スクール」が実現できることが望まれます。私たちPTAも、この制度について学び、みんなで考えられる土台作りをしておきたいものです。



Q 学校運営協議会とPTAの違いは何ですか？

A 学校運営協議会は、合議制の機関であって、法律に基づき、学校運営等について関与する一定の権限が付与されており、校長は、学校運営協議会が承認する基本的な方針に従って学校運営を実施することになります。

一方、PTAは、学校及び家庭における教育の理解と振興や、児童・生徒の学校外における生活指導などの社会教育活動を目的とする社会教育団体として、学校と家庭・地域とをつなぐ役割を持ち、学校の教育活動に協力を行うものであり、学校運営協議会とはその役割、機能を異にするものです。

例えば、PTAの役員が学校運営協議会に委員として参画することなどを通じて、学校運営にPTAの意向を反映したり、学校運営協議会がその活動にPTAの協力を求めるなど、互いに補完し合いながら、学校、家庭、地域の連携をより一層密にすることが期待されます。

